

稲発酵粗飼料の利活用の推進

- 稲発酵粗飼料(稲WCS)は、水田で生産できる良質な粗飼料として、耕種農家・畜産農家の双方にメリットがあり、平成29年度には作付面積が約4.3万haに達するなど、順調に拡大。
- 水田活用の直接支払交付金や収穫機械の導入に対する支援等により、稲WCSの生産・利用の拡大を推進。
※稲WCSとは、稲の穂と茎葉を丸ごと乳酸発酵させた粗飼料(ホールクロップサイレージ: Whole Crop Silage)のことをいう。

【29年度】水田活用の直接支払交付金

戦略作物助成として、8万円/10aを助成。地域の裁量で耕畜連携等の取組に対し、産地交付金により助成。

【28年度補正】畜産・酪農収益力強化整備等特別対策事業

畜産クラスター計画に位置づけられた地域の中心的な経営体(畜産農家、飼料生産受託組織等)が稲WCSの収穫に必要な機械の導入や調製・保管施設整備等を支援。(補助率:1/2以内)

【29年度】強い農業づくり交付金

稲WCS等国産粗飼料の調製・保管施設の整備等を支援。(補助率:1/2以内)

【28年度補正】飼料生産基盤利活用促進緊急対策事業のうち国産粗飼料広域流通体制整備事業

稲WCS等国産粗飼料の広域的な供給・利用を促進するために必要な施設・機械の整備等を支援。

- 稲発酵粗飼料用稲の作付面積(ha)

H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29
9,089	10,203	15,939	23,086	25,672	26,600	30,929	38,226	41,366	42,893

資料:新規需要米の取組計画認定面積